

柔道選手の試合前の認知的方略と競技成績との関連に関する調査研究

－ 防衛的悲観主義に着目してオリンピック選手も対象に含めた検討 －

岩切 歩花（東京学芸大学）

1. 目的

本研究の目的は、大学生柔道選手の試合前の認知的方略と競技成績との間の関連について、防衛的悲観主義に着目し明らかにすることと、オリンピック選手の場合を参照し検討することである。防衛的悲観主義は「過去のパフォーマンスをポジティブに認知しているにもかかわらず、将来への低い期待を有する」ため、「過去のパフォーマンスの認知」及び「失敗に対する予期・熟考」「成功に対する熟考」のそれぞれのスコアの高低に着目し検討することとした。

2. 研究方法

- 1) 対象者：17 大学の大学生柔道選手 107 名と 2024 パリオリンピック代表柔道選手 4 名
- 2) 調査方法：Google フォームでのアンケート
- 3) 質問項目：柔道戦績に関する質問、認知的方略に関する質問（次の 4 因子 20 項目）
「失敗に対する予期・熟考」
「過去のパフォーマンスの認知」
「成功に対する熟考」「計画に対する熟考」
- 4) 分析方法：競技成績の高群と中低群について、認知的方略のスコアに差があるか t 検定により比較したのち、高群の傾向を基準に、オリンピック選手のスコアの様子も検討した。

3. 結果と考察

大学生柔道選手のうち競技成績が高い選手の方が、さらにオリンピック柔道選手の方が、過去の自身の結果に対する自己認知が高いことに加え、予測や準備、計画に意識を向けていることから、そうした試合前の準備や予測が実力発揮ひいては競技成績に関わると考えられる。

大学生柔道選手は競技成績によらず、試合で失敗することを気にはするが、悲観傾向というべきものが強くあるわけではなく、成功に対する熟考を積極的に行う傾向であった。

一方でオリンピック柔道選手は、大学生選手とは異なり、成功に対する熟考を積極的には行わない様

子がうかがわれ、彼らが「将来を悲観的に見る傾向が強い」か「悲観的に考える人がオリンピック選手まで上り詰めている」と示唆された。競技レベルが相当に高い場合、成功を考えることで結果に大きな影響がない、失敗を悲観的に考えることが重要で成功には気が向かない、などの可能性が推察された。

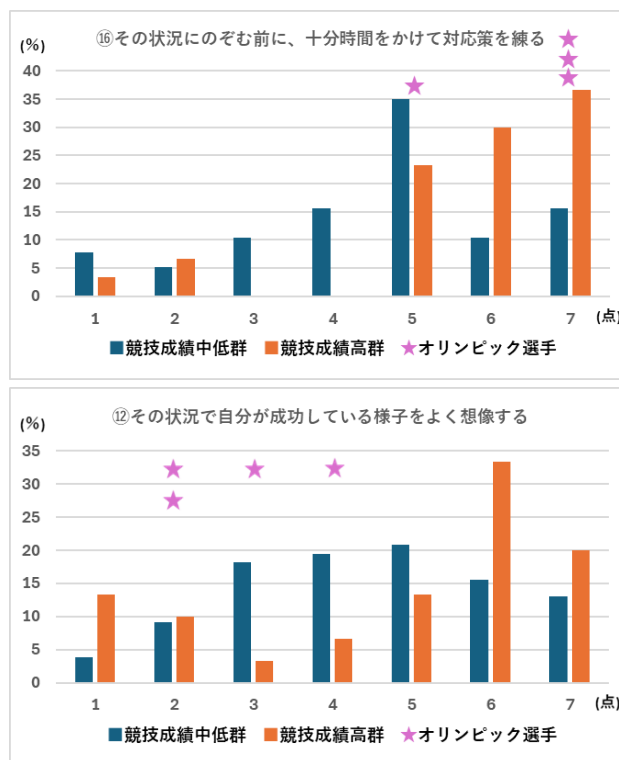


図 質問⑯⑫への中低群・高群・オリンピック選手の回答

4. 結論

本研究では、大学生柔道選手で競技成績と防衛的悲観主義との関連は見られなかったが、競技成績が高い選手の方が方略的楽観主義（過去認知、将来期待がともに高い認知的方略）の傾向があることがわかった。一方で、オリンピック選手では防衛的悲観主義の特徴が現れる様子が見られた。

5. 主な参考文献

高橋由衣・高井秀明：「大学生アスリートにおける認知的方略の特徴：自己調整学習からの検討」, 体育学研究, 68 巻, p75-83, 2023